



R I 3550 地区 パトムワンRC創立40周年記念式典

会長 楠 英夫 幹事 楢戸 憲一

- 例会場 L'AUBE kasumigaura
TEL.029-875-8888
- 例会日時 火曜日 12:30～13:30
- 事務局 土浦市真鍋1-2-6 金塚ビル3F
TEL 029-823-4524 FAX 029-869-9006
- ホームページ <http://tsuchiura-south-rc.com>
- Eメール t_minami@lapis.plala.or.jp

2023～2024年度
国際ロータリーテーマ



世界に希望を生み出そう

2023年12月12日 18号
2023年11月28日 第4例会報告



地区HP



地区行事予定

- | | | | |
|--------------------------|-----------|-----------|-------------------|
| 1. 点 鐘 | 楠英夫会長 | 7. 出席状況報告 | 出席委員会 |
| 2. ロータリーソング斉唱
(奉仕の理想) | | 8. 点 鐘 | 楠英夫会長 |
| 3. 幹事報告 | 楢戸憲一幹事 | | (司会進行：山口裕由 S A A) |
| 4. 委員会報告 | | | |
| 5. ニコニコBOXの発表 | 吉田副 S A A | | |
| 6. 会員卓話
「卒寿を迎えて」 | 海田恭敬会員 | | |

本日のプログラム

年次総会に続き、大甲扶輪社訪問報告を楠会長・楢戸幹事から伺います。

次週のプログラム

12月19日(火)は、18時から例会、例会終了後クリスマス家族懇親会です。(昼の例会はございません。)

出席状況

会員数	出席数	出席免除	出席率	全員出席卓	3名以上欠席卓	メイクアップ	出席訂正率
名	名	名	%	卓	卓	名	%
88	61	5	72.62	2・3・12	15・17	4	77.38

【会員卓話】

卒寿を迎えて

海 田 恭 敬 会 員

光陰矢の如しという言葉がありますけれども、本当に月日のたつのも早いものでいつの間にか齢90歳になってしまいました。皆さん、こんにちは、今日は拙い卓話しか出来ませんが、私の卓話をお聞き頂ければ幸いです。

私は今から90年前、昭和8年、西暦ですと1933年の今日11月28日に四国松山市でこの世に生まれました。それから学業を終え社会人として第一歩を踏み出し貴重な青年会議所時代を経験し、50年間ロータリークラブに在籍していた訳でありますので、私はロータリークラブの皆さんに鍛えて頂き、今日があると思っております。

そういう意味で、初代会長の中川延四郎さんは中川清さんのお父さん、また3代目の北島義一さんは、南ロータリークラブと大甲クラブとの橋渡しをされた方で、北島さんのお陰で姉妹クラブ締結となりました。

大正生まれの先輩は大勢いらっしゃいますが、小竹勝也さんのお父さんの俊夫さん片岡信彦さんのお父さんの司郎さん、佐竹守正さんのお父さんの強さん、江ヶ崎實さんのお父さんの重一さん、また昭和生まれの先輩では内田卓宏さんのお父さんの節さん、堀越泰樹さんのお父さんの昭二さんや私と比較的年齢の近い高橋信子さんのお父さんの安次さんを始め多くの先輩の皆さん方から薫陶を受けました。そういう意味で今日は在りし日の先輩の皆さん方の面影をまぶたに浮かべながら、そして今日の前にいらっしゃる皆さん方にお礼と感謝の気持ちで卓話を進めたいと思っておりますので宜しくお願ひしたいと思っております。

それから、皆さんのレターボックスに私のまつやま応援大使の名刺が入っていると思っております。松山城や道後温泉、子規記念博物館等が2割引きで4人等々、来年の10月まで使えますので、松山に行かれた時はお使い頂きたいと思っております。

松山では年に1回、郷土を愛する会という愛郷会というのがあり、いつも招待を受けるものですから出席しており「ふるさととは遠くにありて想うもの」を実感しております。また、私の90年の人生の中で嬉しいこと、辛かったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、いろいろありますが、殆ど忘却の彼方、昔菊田一夫が「忘却とは忘れ去ることなり」と『君の名は』で言うておりましたが、2つだけ忘れる事の出来ない地獄を見ております。その1つは、四国松山に大爆撃B29空襲で、本当に九死に一生を得たという記憶、もう1つは、昭和64年に昭和天皇が崩御され平成に年号が変わりましたが、平成元年10月6日に愛妻が亡くなってしまった、この世に神も仏もないものか、と当時は天を恨んだりもしました。その後、四国八十八ヶ所参りをして気分的には少し楽になりました。私は昭和一桁の人間なものですから戦中派です。戦後派の皆さん方には、戦争のことなどあまりご存じないと思っておりますし、また聞きたくないかもしれませんが、今日は順を立ててお話したいと思っております。

昭和16年に、大日本帝国が米英相手に宣戦布告し、以前土浦の海軍航空隊の副長をしていた山本五十六司令長官が、12月8日の未明に日本の太平洋艦隊を引き連れて何百機の飛行機がハワイ真珠湾に総攻撃をかけ、真珠湾でアメリカの軍隊飛行機を攻撃しました。日本海軍によるアメリカ海軍太平洋艦隊に対する真珠湾攻撃で、初戦は大勝利を収める事が出来ました。

片や陸軍は南方作戦を実施し、日本には資源がないので、石油やゴム等の資源を獲得するためにシンガポールやフィリピンやボルネオとか南方にどんどん進軍し、どの地区も全部撃破、占領して殆どの東南アジアの地に日本の旗が立ったわけです。しかし山本司令長官が、初戦は

勝ったけれども、持久戦になると必ずアメリカにやられてしまうと、アメリカの国力は今の日本と比べたら数十倍違うから安心してはだめだということで、政府に進言し、機動部隊主力を投入しミッドウェー島攻略を決定。しかし17年6月に行われたミッドウェー海戦において、日本の情報が全て米軍に筒抜けの為、日本海軍機動部隊は空母4隻（「赤城」「加賀」「蒼龍」「飛龍」）という4隻の航空母艦が全部沈没し、それと同時に駆逐艦や巡洋艦「三隈」も喪失する事態になり、飛行機が285機もやられ、パイロットも250名も失い、結果的にはその1日で、太平洋の制空権と制海権が無くなってしまいました。

そのうち、アメリカ軍で有名なマッカーサーが「I shall return～俺は必ず帰ってくるぞ～」という名ゼリフを残してオーストラリアに逃げたんです。けれどもそのマッカーサーがまた太平洋に艦隊を連れてきて、レイテ島の攻略を一気に進めた為、日本軍は完全に孤立し、アメリカ軍の包囲下で飢餓や疫病によって多数の将兵が死亡して組織的に抵抗力を失うことになりました。日本軍が決戦の地と定めたレイテ島はアメリカ軍の手に落ち、もう日本軍が各島全部全滅。武器弾薬もないわけですからもう素手で戦うような感じですから日本の軍は残念ながら玉砕してしまいました。

昭和19年7月にもう最後の砦と言っていた、絶対防衛圏サイパン島が玉砕、続いて20年3月硫黄島が陥落、昭和20年、最後の年になって、4月3日に東京大空襲10万人の死傷者が出ました。その後、大阪、名古屋、神戸と、大都市は全部爆弾を落とされて、土浦の航空隊などは6月2日にやられました。それでも日本は降参しないから全国の県庁所在地、松山とか水戸とか日本の47都道府県の県庁の所在地を爆撃、松山は終戦前の7月26日に爆撃され、水戸は8月2日爆撃されております。当時私は小学6年生、当時は電灯の傘に風呂敷を被せて外に光が漏れないような生活でしたが、7月26日、その時夜空がパッと明るくなったんです。B29がまず焼夷弾の前に照明弾を落とし周囲を昼間の様に明るくして爆弾を落とす訳です。防空壕に入っていた私達に班長が「もうダメだ、死んでしまうから逃げろ」と。外は火の海ですから水を被って逃げました。14キロ位の距離を一目散で兄と二人で逃げた記憶があります。この爆撃で3万数千人もの死傷者が出ました。この松山大空襲で知人・友人達を失ってしまいました。

日本は東条英機、ドイツはヒトラー、イタリアはムッソリーニ、その三ヶ国首脳が日独伊同盟を結んでいました。ドイツがソ連を追い詰めて日本にソ連を挟み撃ちにしたいとの協力要請があったのを日本はソ連と中立条約を結んでいるとの理由で断ったのです。そのうちソ連が勢いをもり返して、昭和20年の5月7日にドイツも無条件に降伏したんです。日本はもう戦況が著しくなく、早く誰かに仲裁してもらわないとという中、和平工作の為ソ連のクレムリンに使者を送りましたが、みんなゲイペイウーという憲兵隊に途中で捕まって殺されるんです。それどころかソ連がいつ日本に攻めようかと虎視眈々と狙っている情報をアメリカは掴んでいる、早く日本に無条件降伏してもらいたいということで8月6日に広島に原爆を落とし、それでも日本は降参しないので8月9日に長崎にまた原爆を落としたのです。その前日にソ連は情報を掴んで8月8日の夜に日本に宣戦布告したんです。日本と中立条約を結んでいる国が一方的に宣戦布告で攻めてきて、満州にいる日本の軍人、民間人約30万人をシベリアに引き連れて行きシベリア鉄道の開拓に従事させたという事実があります。飢えと氷点下30℃～40℃という寒さで毎日何百人の同胞が倒れていったそうです。しかし私の祖国では自分を待っていてくれる人がいると希望を持っていた人達が助かったと聞いています。やはり人間は希望を失ってはだめですね。

それから沖縄は、アメリカ軍が攻めてきて4月1日に沖縄に上陸、沖縄の日本軍隊はじめ県民が相当抵抗したのですが、組織的な抵抗は6月23日で終わっております。かたや北方では、齒舞・色丹・国後・択捉の4島列島を占領されその勢いで北海道にソ連軍が攻め込んで来たのです、最終的に第5方面の樋口季一郎中将率いる部隊が徹底的に抗戦して北海道に入れなかったのです。もしソ連軍が北海道を占領していたら、今ごろ北海道はソ連の領地になっていると

いうことです。その後ヤルタ会談で戦勝国のアメリカのトルーマン、イギリスのチャーチル、中国の蒋介石、ソ連のスターリンが集まって敗戦国の領土分割について協議したところ、日本も東京から北はソ連がもらい、西はアメリカでというようなことを言い出したそうですが、中国の蒋介石が「日本は朝鮮やドイツと違う、一緒にするな」と断固として反対しました。その蒋介石は、昔日本の陸軍士官学校の卒業生でした。日本のことはよく知っている方で、反共の闘士だったんです。中国では、当時、毛沢東の率いる共産党と、蒋介石の率いる国民党が内戦をやっていました。最後には蒋介石は台湾に追い込まれたのですが、我々日本人としては、蒋介石には相当恩義があるのです。台湾に対していろいろなことを言う人がいますけれども、蒋介石がいなかったら、今頃日本ここ茨城県はソ連領になっていたかもしれません。

そういう意味で、今から50年前にこのロータリーに入ったときに先程お話した北島さんの関係で台湾の大甲クラブが出来、姉妹クラブを結ぶということを知って本当に良かったと思いました。

当時私は40代、50代、60代位まで、会員・SAA・国際奉仕委員長・幹事・副会長・会長の時には毎年のように台湾に行きました。当時は日本語が通じました。当時日本政府は、日本語を世界語にしようと思ったんです。全国の国語の先生方を南方諸国に送り日本語を教えたんです。今はもう日本語の出来る大甲クラブの人は殆どいないと思うので残念ですが、そういう歴史がありました。日本はいろんな国と戦争もしたし、助けても頂きました。それで8月15日に終戦、やっと終わりましたが、約310万人の兵、民間人が亡くなりました。「8月や6日9日15日」は当時流行った残念な言葉です。

なぜその戦争の話をするのかと言いますと、今の野党が、外交がしっかりしてれば、戦争は起きないと言っていますが、外交だけではだめ、力が正義なんです。これは歴史が証明しています。日本に外国の連中が攻めて来た時に自分で戦わなくて、アメリカ軍隊がお願いだけで、アメリカの青年の血を日本の為に流す訳がない。やはり日本は自分で自衛しなきゃいけない、私は日本の国がもう少し強くなるべきで、強くないと足を止められすぐ攻めて来られると思います。強い戦力を持つという事は攻撃用ではなく、我国の防御、即ち抑止力にもなるのです。

そういうことで第一弾の戦争の話は終わらして、第二弾。

私が社会人になりどうして土浦に来たのかと言いますと大学を出た時に石油エネルギーに大変興味を持ちました。昔はガソリン一滴、血の一滴と言われていた時代だったんです。7-80年前のエネルギーというのは、昔は薪炭・石炭、これからは石油の時代だと。非常に石油に興味を持っていました。当時、日本でシェルのセブンディーラーという7つの特約店があり、しっかりした石油会社で先輩が手伝ってくれないか、と言うので快諾しました。親には早く松山へ帰って来いと言われていましたが、セブンディーラーの恵谷産業というところに入りました。話は飛びますが、大阪の三輪商事という会社が倒産しまして、私がお阪に行きその倒産した会社の受け皿を作る仕事をしていた時に、土浦で常南シェルという会社が危ないので、君のところでやってくれ、と言われたんです。「海田君、土浦行ってくれないか」と言われた、私が兄のように慕っていたあの海田茂雄さんが祖国の為に大学を繰り上げ卒業して、ペンを操縦桿に替え海軍の予備学生として訓練を受けた町である土浦に行ける事を私は全身がビリビリする程嬉しく感じ、喜んで土浦に来ました。最終的には恵谷産業で引き継ぐという形になり、一生懸命仕事をやっておりますと最初2ヶ所しかなかったのを最終的には土浦5ヶ所、つくば3ヶ所、牛久、藤代と店舗展開を10ヶ所まで店舗を作り、販売店もたくさん作りました。土浦に来た当時無我夢中で仕事をしていましたと、お客さんである酒井亨さん（礎會初代頭）、吉田正雄さん（二科会員）、飯田徳治郎さん達が社長室に入って来て「海田さん、企業に対する情熱を地域社会に明るく街づくりのためJ Cにと入会を勧められ、そのまま土浦J C、土浦南R Cと続くわけです。

土浦に来たのは、兄のように慕っていた私のいとこの海田茂雄さんが土浦海軍航空隊に入隊したことで、昭和19年に土浦からハガキやいろいろなものが届きました。土浦は、私が少年

時代に全国で初めて知った都市でした。懐かしい名前でした。しかし茂雄さんは厳しい訓練の結果、土浦海軍航空隊で海軍少尉に任官し、その後筑波航空隊 姫路航空隊と移り、最後には昭和 20 年 4 月 6 日に神風特別航空隊第一護皇白鷺隊の一員として敵空母に体当たり攻撃を決行。母国の必勝を信じ、21 歳の若き人生を国に捧げたのであります。今は、海軍大尉海田茂雄として靖国神社に英霊として祭られています。私は、毎年九段坂にある静かな森の靖国神社で茂雄さんと会っています。今は亡き茂雄さんが若かりし頃駆け巡ったこの土浦の大地を私も思いっきり走ってみたい、そして茂雄さんが吸った空気を私も吸って最後にはこの地土浦に骨を埋めることを決めました。

誰も知らない知人も友人も誰もいない土浦で JC に入りいつの間にか理事長に推薦されて、石油業界でもいろいろな所で自分の意見を明確に主張していたものですから有名になり、いつの間にか業界の理事から、茨城県の石油商業組合の理事長に推されました。茨城県には天下の関彰商事さん、土浦の宇田川石油さんをはじめ素晴らしい特約店がたくさんあり、それら大手業者の中では大変苦勞もありましたが、シェル石油の応援でネットワークを作る事が出来、その間、関正夫社長には大変お世話になりました。関社長にお礼がしたいと、ベンツの販売店になりました関彰商事さんで、ベンツを購入しました。あれから既に 20 数年が経ち、ベンツのナンバーは 2815。明治時代 6 月 28 日に父親が生まれ、10 月 15 日に母親が生まれたので、いつも両親と一緒に車に乗っているつもりで正面のプレートナンバーに両親の誕生日の数字を入れました。

どちらしても私はこの土浦に来た事を後悔しておりません。土浦でいろいろな人に出会いました。ロータリーの大先輩、そして今日の前にいらっしゃる仲間、JC の仲間。JC に入ったことで茨城県の JC 連中と本当にいい友達になっただけでなく、越中富山に黒四ダム（黒部ダム）の一番厳しい部分を作った佐藤工業という会社の佐藤助九郎さんが日本 JC の第 23 代会頭の時、その方を頭にして昭和 8 年酉年生まれのコケッコ会という会を作って 80 歳くらいまでは一緒に行動を共にしました。

ある先輩がよく「社会人になったら鶏頭になるも、牛尾になるな。」と、鶏頭というのは、鳥の鶏冠が頭になったらいい、牛のしっぽになるなど、大企業の歯車として働くのも一つの生き方、小なりといえどトップでやる生き方、どちらを選ぶかは本人の自由だと言われた記憶があるんです。私は土浦に来て自分が経営者になってエタニ石油という別会社を作って、10 か所の直営サービスステーションを作って今日に至りました。でも息子もいない娘が総合商社に入って、油屋の後継ぎするような力もありませんので、エネルギーの商社というのが丸紅、あるいは日商岩井とか伊藤忠燃料とか。そういう商社は、石油は作っていませんけども、大量にメーカーから買い付けて、それをスタンドに卸します。当時メーカーが 13 あったのが今は 3 つです。日石グループは、エネオス、シェルは出光に売りましたので、コスモ石油、今 3 つになってしまいました。そこで M & A で、エタニ石油を、一番社員を大事にしてくれる会社を選び譲渡しました。

振り返りますと私は、ロータリークラブに入って非常に良かったと思っております。皆さん方もロータリーに入会されて、まだ日の浅い方もいらっしゃるでしょうし、長い方もいらっしゃるでしょうけど、今後是非頑張ってくださいと思います。昔は大先輩から人生について、また、企業経営についていろいろ教えて頂き、今は若い皆さん方に勇気と元気と英知を頂き、この年になっても友人、知人の輪が広がっている様に思えます。私は現在 90 歳の卒寿を迎え企業の経営責任も終え、ファミリーも何とかやっています。この度は、皆さんからたくさんの祝福をして頂き大変幸せです。

「我が人生に悔いなし」であります。

まだまだ、お話したい事はたくさんありますが、時間が来た様なのでこれで終わります。ご清聴ありがとうございました。

海田会員 卓話資料

- ①松山時代 少年期
- ②大東亜戦争について
- ③石油業界へ ご縁あり土浦市へ

昭和8年11月28日松山市生まれ

海田恭敬 かいだ やすひろ
エタニ石油(株)代表取締役
趣味 読書 旅行



大東亜戦争につて

- 昭和16年 4月13日 日ソ中立条約締結
- 昭和16年 12月 8日 ハワイ真珠湾
- 昭和17年 6月 5日 ミッドウェイ海戦
- 昭和20年 8月 6日 広島
- 昭和20年 8月 8日 ソ連宣戦布告
- 昭和20年 8月 9日 ソ連満州進攻
- 昭和20年 8月 9日 長崎
- 昭和20年 8月11日 ソ連樺太進攻
- 昭和20年 8月15日 終戦

海田 茂雄

機種	海軍一ノ駆空決戦
戦死年月日	昭和20年4月9日
隊名	第1機立白電隊(平良)
階級	少尉(戦死時の階級)
年齢	21歳
出生年	大正12年10月6日
出身地	愛媛県伊予市宮下1857-1
出身期別	第13期海軍飛行学校予備学生
出身学校	愛媛師範学校
出身基地	青良
出陣機種	97式艦上攻撃機
戦死場所	沖縄周辺
備考	

隊員情報



- 2023-24 年度 地区補助金プロジェクト「土浦市新治運動公園内アルミベンチ寄贈」ですが、11月30日に無事設置致しました。

